

ぎょうだ
歴史系譜 213
行田の歴史再発見 16

忍城の廃城

江戸幕府が倒れ明治政府が成立した後も、江戸城や大坂城など幕府直轄だった城郭を除いて、全国の城郭はおおむね従来どおり各藩が管理していました。忍城も引き続き忍藩主松平家の管理下にありました。しかし、各藩は財政の立て直しや経費削減のため、利用価値が低下した城郭の取り壊しや、建物が壊れても今後は修理を加えないことなどを政府に願ひ出るようになりました。

忍藩でも明治3年(1870)8月に、忍城の櫓や塀などが壊れても修理をせず廃止とすることを願ひ出て、即日許可が下りています。明治4年(1871)7月に廃藩置

県が行われ忍藩は忍県となり、藩主の居館だった二の丸御殿が忍県庁として使用されました。その後、11月に埼玉県が誕生すると忍県庁も廃止となり、役所としての機能もなくなりました。



忍城鳥瞰図(明治6年)

県庁などに使用されているものも多く、当面は各県に管理を委ねてきましたが、やがてその対策が課題となってきました。12月には兵部省の武官が関東地方の城郭を巡回し、存廃の意見書が出されました。それによると、「忍城は城郭の周囲が沼地で水が満ちており、土地が湿っていて度々水害がある。城外に湿気の少ない土地がなく、廃止してはどうか」という報告がされています。

明治5年(1872)2月に兵部省が廃止され陸軍省が設置されると、同省で城郭の存廃の検討が進められ、明治6年(1873)2月に存続42城、廃城125城と決定し、

忍城も廃城となりました。廃城となった城郭は大蔵省に引き渡され、忍城の大手門や三階櫓など主要な建物は競売にかけられました。落札額は、大手門が75円26銭6厘6毛、三階櫓が175円4銭1厘7毛、鐘楼が25円、二の丸御殿が635円となっていました。落札した人は建物を解体して持ち去ったと思われる、忍城の建造物は地上から姿を消していききました。現在は、加須市の總願寺に移築された北谷門と、博物館の西側にある高麗門の二つが忍城のなごりを伝えています。
 (郷土博物館 鈴木紀三雄)

こぜにちゃんが
 with フラベス
行く!

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

忍城址の鐘楼

忍城址内にある鐘楼は、平成4年に再建されたもので、忍城御三階櫓と併せて行田の観光名所となっているよ。

郷土博物館には、鐘楼につり下げられていた鐘「忍城の時鐘」が展示されているんだ。江戸時代、桑名で造られたこの鐘は、桑名の殿様が領地を忍に移した時に、一緒に忍城に移されたんだって。大きさは高さ151センチメートル、重さはなんと600キログラムというから驚きだよ。

おみそかの夜には、「行田ゆく年くる年」というイベントが開催され、家族連れやカップルなど多くの方でにぎわいます。鐘を突いて、みんなで年を越してみませんか。



今月の表紙

11月13日、市役所周辺で第32回行田商工祭・忍城時代まつりが開催されました。火縄銃の演武や物産大バザールなどさまざまな催しが行われ、中でも「忍城水攻め攻防戦」をテーマにした寸劇は多くの注目を集めました。真田幸村に立ち向かう甲斐姫の剣さばきに、会場に詰め掛けた誰もが魅了されていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています